

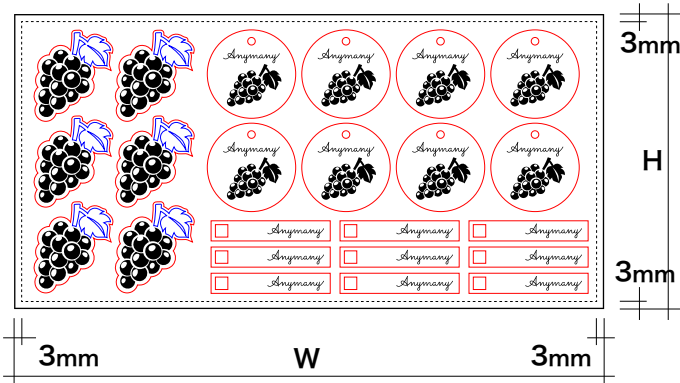
Step 1 アートボードの作成

- 注文したいマテリアルサイズ (30×60cm、30×30cm など) のアートボードを作成。

加工できるエリアはご希望マテリアルサイズの端から **3mm オフセット** したサイズまで。

一つのドキュメントに対して、一つのアートボードで作成ください。

複数枚作成する場合は複数アートボードを作るのではなく、別のドキュメントで作成ください。



マテリアルサイズ一覧			
	30×60cm	30×30cm	15×30cm
アクリル、二層板			
シナベニヤ、航空ベニヤ、MDF、コルク、レザー、フェルト			
ヒノキ、アガチス			
ボール紙		A3 (29.7×42cm)	← 木目方向 (二層板はヘアライン方向)

- カラーモードは RGB に！

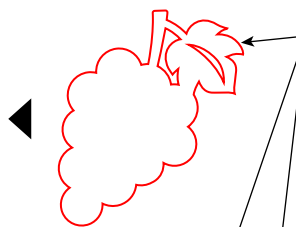
新規ドキュメントの場合は「プリセット詳細」でカラーモード「RGB カラー」に選択。

既存ドキュメントの場合は「ファイル > ドキュメントのカラーモード > RGB カラー」を選択。

Step 2 デザインの作成

- 希望の加工によってオブジェクトの **線 / 塗りの色** を設定し、アートボード上に配置ください。

カットのみ の場合

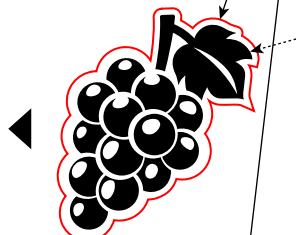


カット (カットしたい線)

塗り：なし
線：カラー 赤 (R:255 G:0 B:0)
線幅：1pt
不透明度：100%

通常 ▼ 不透明度：100% >

カット + 彫刻 の場合

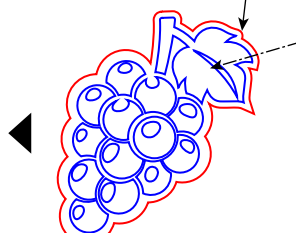


彫刻 (彫刻したいエリア)

塗り：カラー 黒 (R:0 G:0 B:0)
線：なし
線幅：なし
不透明度：100%

通常 ▼ 不透明度：100% >

カット + ライン彫刻 の場合



ライン彫刻 (ライン彫刻したい線)

塗り：なし
線：カラー 青 (R:0 G:0 B:255)
線幅：1pt
不透明度：100%

通常 ▼ 不透明度：100% >

★ カット + 彫刻 + ライン彫刻 の混在もちろん可能です！

★ 「彫刻」と「ライン彫刻」の違い

広い面を彫刻したい場合は「彫刻(黒の塗り)」に設定を。0.5mm程度の細い“線”を彫刻したい場合は「ライン彫刻(青の線)」の方が加工時間が短く、コストも安くなるのでオススメです。0.5mm以上の太い線を彫刻したい場合は、線をアウトライン化して「彫刻(黒の塗り)」に設定してください。

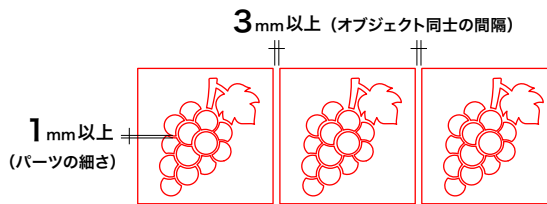
線をアウトライン化する方法は、Step3をご確認ください。

Step 3

太さ・間隔・特殊効果などの確認

■ カットの線と線の間隔は十分余裕がありますか？

オブジェクトとオブジェクトの間隔は 3mm 以上、
パーツの細さは 1mm 以上間隔を空けてください。
規定値を超えた細かい加工の場合、焦げや折れの原因になります。



■ 彫刻面に細すぎる線はありませんか？

0.5mm 以下の細い線は、彫刻が薄くな見えにくくなる場合があります。
デザイン上重要な細い線がある場合、太さを調整してください。



■ 線が2重に重なっていませんか？

重なっている部分があると、レーザーは 2 回加工してしまいます (焦げや歪みの原因になります)。
→ ダイレクト選択ツールを使って余分な線を選択し、削除

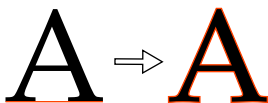
■ イメージ (jpg など) を元にしていない場合は、イメージをパス化してください。

画像データを貼り付けただけでは、加工できません。
→ オブジェクト > 画像トレース > 作成して拡張 でパス化



■ テキストや効果はアウトライン化されていますか？下記の手順で、アウトラインを作成してください。

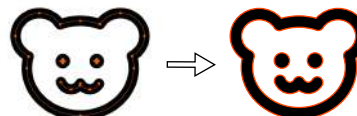
・通常テキストの場合
→ 書式 > アウトラインを作成



・ブラシの効果の場合
→ オブジェクト > パス > パスのアウトライン



・線の太さを加工面にしたい場合
→ オブジェクト > パス > パスのアウトライン



・エンベロープ効果がかかったオブジェクトやテキストの場合
→ オブジェクト > エンベロープ > 拡張

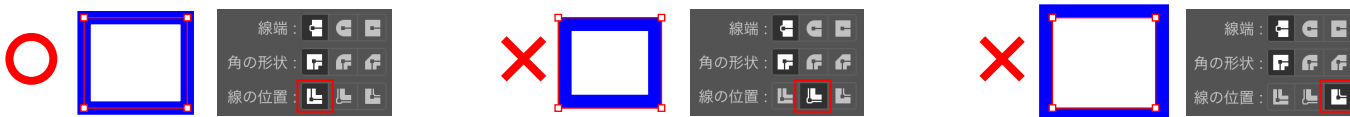


・「効果 > スタイライズ > 角を丸くする」で角を丸くしてあるオブジェクトの場合
→ オブジェクト > アピアランスを分割



■ カットやライン彫刻の線は、「線の位置」が中央に揃っていますか？

「線」の設定で、「線の位置」が内側または外側の設定になっていないか確認ください。



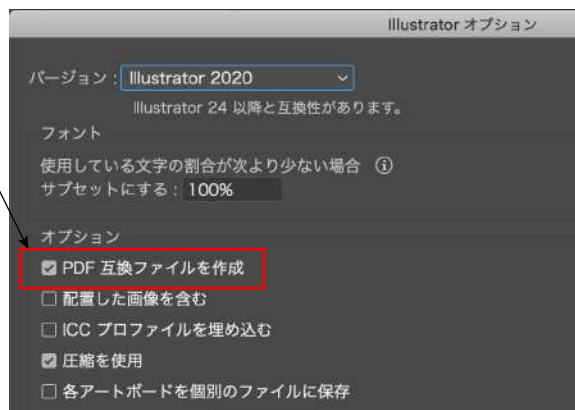
Step 4

ドキュメントの保存

■ 「別名で保存」をした時に現れる「illustrator オプション」のウィンドウにて、「PDF 互換ファイルを作成」にチェックが入っているか必ず確認してください。このチェックが入っていないと、『スピード注文』のフォームから入稿ができません。

★「上書き保存」をすると、illustrator オプションウィンドウが現れません。
「別名で保存」をして、右図の項目のチェックを確かめてみてください。

★『スピード注文』で入稿いただけるのは、ai データ、pdf (ベクトルデータ) のみです。svg、dxf など他のベクトルデータの場合、または jpg や png、pdf の場合は、『問合せ注文』よりご注文ください。



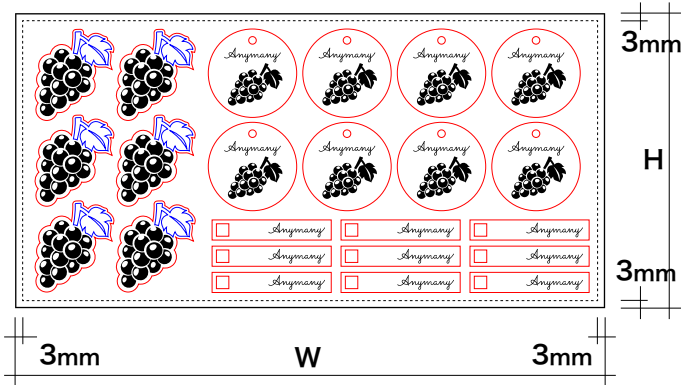
Step 1 ページの作成

- 注文したいマテリアルサイズ (30×60cm、30×30cm など) のページを作成。

加工できるエリアは、ご希望マテリアルサイズの端から **3mm オフセット** したサイズまで。

一つのドキュメントに対して、一つのページで作成ください。

複数枚作成する場合は複数ページを作るのではなく、別のドキュメントで作成ください。



マテリアルサイズ一覧			
	30×60cm	30×30cm	15×30cm
亚克力、二層板			
シナベニヤ、航空ベニヤ、MDF、コルク、レザー、フェルト			
ヒノキ、アガチス			
ボール紙		A3 (29.7×42cm)	← 木目方向 (二層板はヘアライン方向)

Step 2 デザインの作成

- 希望の加工によってオブジェクトの **ストローク (線) / フィル (塗り)** の色を設定し、ページ上に配置ください。

カットのみ の場合



カット (カットしたい線)

フィル：なし
ストローク：カラー 赤
(R:255 G:0 B:0)
線幅：1pt
不透明度：100%



カット+彫刻 の場合



彫刻 (彫刻したいエリア)

フィル：カラー 黒
(R:0 G:0 B:0)
ストローク：なし
線幅：1pt
不透明度：100%



カット+ライン彫刻 の場合



ライン彫刻 (ライン彫刻したい線)

フィル：なし
ストローク：カラー 青
(R:0 G:0 B:255)
線幅：1pt
不透明度：100%



★ **カット+彫刻+ライン彫刻** の混在ももちろん可能です！

★ 「彫刻」と「ライン彫刻」の違い

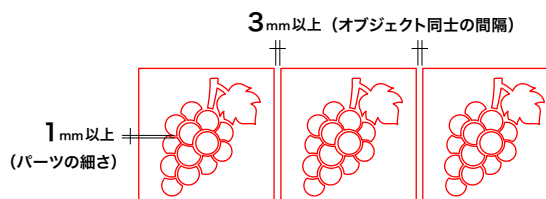
広い面を彫刻したい場合は「彫刻(黒の塗り)」に設定を。0.5mm程度の細い「線」を彫刻したい場合は「ライン彫刻(青の線)」の方が加工時間が短く、コストも安くなるのでオススメです。0.5mm以上の太い線を彫刻したい場合は、線をアウトライン化して「彫刻(黒の塗り)」に設定してください。

線をアウトライン化する方法は、Step3をご確認ください。

Step 3 太さ・間隔・特殊効果などの確認

■ カットの線と線の間隔は十分余裕がありますか？

オブジェクトとオブジェクトの間隔は 3mm 以上、
パーツの細さは 1mm 以上間隔を空けてください。
規定値を超えた細かい加工の場合、焦げや折れの原因になります。



■ 彫刻面に細すぎる線はありませんか？

0.5mm 以下の細い線は、彫刻が薄くな見えにくくなる場合があります。
デザイン上重要な細い線がある場合、太さを調整してください。



■ 線が2重に重なっていませんか？

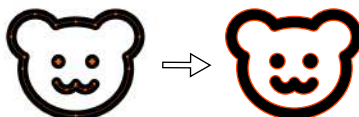
重なっている部分があると、レーザーは 2 回加工してしまいます (焦げや歪みの原因になります)。

■ テキストや効果はパス化されていますか？ 下記の手順で、パスを作成してください。

・通常テキストの場合
→ パス>オブジェクトをパスへ



・線の太さを加工面にしたい場合
→ パス>ストロークをパスに変換



Step 4 ドキュメントの保存

■ pdf 形式で保存 (『スピード注文』を利用する場合、PDF 化が必須です。)

Inkscape のデフォルトの保存形式は svg ですが、スピード注文で利用するには PDF 形式で保存します。
「ファイル>名前を付けて保存>pdf」を選択

■ svg 形式で保存 (『問合せ注文』の場合は svg 形式のままでも OK)

「ファイル>保存 (Inkscape SVG)」
もしくは「ファイル>名前を付けて保存 (Inkscape SVG)」を選択

★『スピード注文』で入稿いただけるデータ形式は、ai、pdf(ベクトルデータから変換したもの)のみです。

svg、dxf など他のベクトルデータの場合、または jpg や png、pdf (書類データ) の場合は、『問合せ注文』よりご注文ください。